

日本地質学会中部支部 2018 年年会 山梨大会公開シンポジウム

南部フォッサマグナ の過去・現在・未来

山梨県は、地質学的には南部フォッサマグナと呼ばれる変動地帯に位置しており、富士山やハケ岳火山の他に、南アルプス東縁には糸魚川―静岡構造線（糸静線）という大断層が分布しています。将来的には、富士山噴火や南海トラフ地震に加えて、糸静線の活動によるマグニチュード8クラスの巨大地震の発生が予想されます。本シンポジウムでは、過去から現在までに南部フォッサマグナで起こってきた地殻変動について、専門家に詳しく解説して頂くと共に、将来発生が予想される火山噴火や内陸地震について考えます。

開 催 日 2018 年 6 月 16 日（土）開演 13:00 ～ 15:00, 受付 12:30 ～ 13:00
会 場 山梨大学教育学部 N 号館 N-11 講義室
講 演 天野一男氏（日本大学）・松原典孝氏（兵庫県立大学）
『南部フォッサマグナの島弧・島弧多重衝突テクトニクス―これまで・これから』
狩野謙一氏（静岡大学）・宮坂 晃氏（立科町教育委員会）
『北部・南部フォッサマグナ接合域の更新世テクトニクス』
内山 高氏（富士山科学研究所）
『山梨の火山―富士山とハケ岳』
司会・進行 福地龍郎氏（山梨大学）

主 催 日本地質学会中部支部
共 催 山梨大学・山梨大学教育学部
後 援 山梨県・山梨大学山岳科学特別教育プログラム
問い合わせ先 山梨大学教育学部（福地龍郎） Tel. 055-220-8219, E-mail: tfukuchi@yamanashi.ac.jp

参加無料
申込不要
(定員 200 名)
先着順